



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

## 理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

### 基本方針

#### 患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

#### 患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に  
医療機能の充実を図ります

#### 完結型医療

地域の医療機関との連携を行い  
安心できる医療の展開を行います

#### 社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療  
ボランティアの活動を行います

#### 医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の  
育成を行います

## 【平成 28 年熊本地震 JCHO 人吉医療センター活動状況】

被災されました皆様へお見舞いを申し上げますとともに  
お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

また、当院病棟上層階の揺れがひどく患者のみなさまには  
床頭台が倒れるなど外傷等はなかったものの、ご心配などを  
お掛けし申し訳ございませんでした。

さて、平成 28 年 4 月 14 日熊本地震の前震（最大震度 7、

M6.5）では当院がある人吉市は震度 4、16 日の本震（最  
大震度 7、M7.3）では、震度 5 弱が観測されています。ひ  
と月経つ現在も地震活動は活発な状態が続き、今後も警戒  
が必要な状況です。今回は、4 月号の速報に続き当院にお  
けるこれまでの各部門における災害活動状況について報告  
いたします。



熊本赤十字病院



益城町役場



熊本県医療救護調整本部（熊本県庁）



益城町役場



家屋

### DMAT

人吉医療センターでは、DMAT を 2 隊（9 名）配備し  
ております。DMAT とは災害時の急性期・初期活動がで  
きる専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調整員で  
構成された災害派遣医療チームのことです。

4 月 14 日に発生しました震度 7 を超える熊本地震の余  
震後、熊本県より DMAT 派遣要請が人吉医療センターに  
入りました。それに応えるべく、チームは日付が変わる 24  
時過ぎには指定された熊本赤十字病院へ出発。深夜 3 時  
過ぎから熊本赤十字病院に待機。先発隊は被害の大きかつ  
た地区に救護所を立ち上げる等の活動をする中、明るくな

るにつれて被害状況が明らかになり、我々のチームは倒壊  
の危険がある益城町周辺の病院からの患者転院支援の業  
務にあたりました。各県からの応援 DMAT も続々と到着  
し、県内の隊は自施設優先との指示もあり同日 21 時頃  
には人吉へ撤収完了しました。16 日の本震直後にも 1 隊派遣、  
また県庁の医療救護班本部には下川副院長をはじめ業務調  
整員派遣の要請にも DMAT 隊員を派遣しております。

現在でも余震など予断を許さない状況ではありますし、  
派遣活動で熊本市内に行くと復興にも相当な時間がかか  
ると感じます。今後も被災県の DMAT 隊員として、出来  
るかぎりの協力を行いたいと思います。

人吉医療センター DMAT 木下 学

## 災害対策本部

14日21時26分、人吉市は震度4、大きな揺れを感じた職員は院内外から病院事務部に参集し、自動的に災害対策活動が始まりました。TVの大きな地震情報を耳にしながら、①災害規模の把握②病院被害状況の把握③地域の状況把握④職員や患者状況把握を行いました。ホワイトボードにライティングシートを貼付、施設状況把握シート・職員状況把握シート、職員名マグネットボードその他災害対応ツールを設置し、各部から寄せられる施設状況と職員情報を記録、EMIS（救急医療情報システム）登録、DMAT派遣に関する準備や後方支援、アマチュア無線によるDMAT緊急車両が走る道路情報の把握や高速道路ICへ緊急車両通行の連絡、職員安否情報は緊急連絡網を利用、災害医療体制の準備として特に医師の所在確認を行いました。

16日深夜に再び震度5弱の揺れがあり、病棟上層階の



床頭台が倒れるなどの被害がありましたが、患者さんに怪我はなく幸いでした。その他、透析やレスピレータ関連情報を含む地域の医療情報の把握、厚生労働省DMAT事務局、県庁、保健所、市役所、JCHO本部と地区事務所との連絡やメディア対応を行いながら、ドクターヘリや救急車による患者受け入れ対応を行いました。

今回は、ライフラインは無事でしたが、毎日余震は続き警戒が必要な状況です。準備物の確認を含め、さらに警戒していきましょう。

総務企画課 西山 三智

## 看護部

当院では、6名の看護師が「災害支援ナース」として登録を行っており、今回の熊本地震では4名の看護師、また、助産師協会の依頼により1名の助産師が、災害支援にあたりました。

今後も長引く避難所生活や、復旧作業などで体調不良を訴える人が多くなることに对应して、被災者などの支援にあたります。

公益社団法人日本看護協会は、地震発災後に災害対策本部を設置し、4月17日より熊本県看護協会が災害支援ナースを県内派遣し、県の保健師と連携し、24時間2交代で被災された方の支援にあたっています。

### －「災害支援ナース」とは？－

看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職のことです。実務経験5年以上で、一定の研修を受講した看護職が都道府県看護協会に登録されています。阪神淡路大震災の後、大規模災害に対応するために日本看護協会内で仕組みが検討され、現在の災害支援ナースの体制が構築されました。2016年3月現在、7,771名の登録があります。

看護部 井手 美智子

## 経理課

- 地震発生後、ただちに病院へ向かい中央監視モニターの異常が無いことを確認。
- 警備員に防災センター警報盤の異常の有無の確認
- 非常用エレベーター（EV）停止の回答（感震装置起動による停止）EV保守会社担当者へ連絡：翌日復旧
- 取引先（医療用ガス・重油・灯油）被災状況確認及び在庫・供給体制の確認。
- 高層階（9階）より順次、病棟床頭台の転倒防止の固定作業。
- ライフラインの確認（第1～3電気室、発電機（3台）、受水槽・高置水槽・ろ過装置・配管・地下水の水位・濁り）：異常なし

- 施設点検（ボイラー・地下タンク・液体酸素タンク（CE）・マニホールド・ストレージタンク・チラー・熱交換器・オートクレイブ・ヘリポート・エコキュート・厨房電磁調理器・外壁の確認）：異常なし
- 診療材料仕入れ先の被災状況確認及び在庫・供給体制の確認。
- エムサービス在庫・供給体制の確認。
- 看護学校・職員寮の施設点検
- 職員寮エレベーターの停止確認（感震装置起動による停止）EV保守会社担当者へ連絡。
- 他異常なし。

経理課 村山 純一

## 臨床検査部

二度の地震で機器の破損などはありませんでしたがネットワークの不良で電子カルテが使えなくなり翌朝復帰するまで紙運用となりました。

地震との関連は不明ですが感染症検査機器のサーバー

が立ち上がらなくなり1日稼働できませんでした。

検査部25名の安否確認、連絡等に電話は繋がりにくく、メールでは面倒なので「検査室LINE」を立ち上げました。情報の迅速な伝達と収集にかなり役立ちました。

臨床検査部 阪本 裕子



## 栄養管理室

今回の熊本地震では幸いライフラインに影響なく、1回目地震の翌日に熊本市内から物資の配送が出来ず4月16日分のみ献立を替えただけで、問題ありませんでした。その後、地元の業者から米や肉類・野菜類の調達、給食委託業者取引先の調達も確保できており災害時の対応は万全ですが、余震が続いているため油断はできません。

栄養管理室 大岩 洋子

## 画像診断センター

今回特に異常なく、通常の業務が可能でした。

もし、災害が発生した場合は、第一に患者様の安全確保を行い、スタッフの状況確認、装置の状況確認、放射線管理区域の損壊状況確認等を行います。また、災害発

また、あくまでも今回の地震に対しての対応であるため、もし人吉・球磨地方で同じ規模の地震(災害)が起こった場合を想定すると、交通の寸断だけでも給食物資が運ばれて来ない訳ですから食料の確保は難しいと考えられます。現在の備蓄食品は患者用が3日間、被災者や職員用は2日間、飲料水は3日間で、今後数量や保管場所などの検討が必要と感じました。

生時商用電源が使用できない場合は非常用自家発電を使用します。使用電力を最小限に抑えられる理由から回診用X線撮影装置2台、外科用イメージ2台、口外汎用歯科X線撮影装置1台、CR読み取り機2台、PACSが使用できない場合はフィルム出力で対応します。

画像診断センター 丸尾 時雄

## 救急センター

被災地からの域内搬送受入が可能な様に救急室内のベッドの配置を変更、廊下には簡易ベッド椅子を配置し、通常の救急患者と被災患者の受け入れ担当を分け、その日の受診相談や入院受入れを行いました。

実際には、被災地で透析ができない患者の透析相談や被災地でけがをして避難してきた方の受診相談、熊本市内での入院受入困難な患者や状態が落ち着いた患者を他県のDMAT・ドクターヘリが出勤して受入を行いました。透析については当院では維持透析が困難なため、連携室と協働し、近隣医療機関と連携を取りました。院内で協力し、早急に地域の状況の確認がとれたことは、良かった

と思います。

現在、今回の地震で受診される方は少なくなっておりませんが、被災地より避難してきている方など体調を崩



される方もいらっしゃるようです。エコノミークラス症候群など重症化すると命に危険を及ぼすものもありますので、予防など行いくれぐれもご注意ください。今後も患者さんの状況に合わせ、柔軟で的確な対応ができるよう体制を整えていきたいと思っています。

医療福祉連携室 金栗 由佳

## 医療福祉連携室

連携室では、被災地の医療機関で入院継続が困難な患者さんの転院、避難者の外来受診調整を行いました。余震が続くため、いつでも受け入れ調整が行えるよう、16・17日は24時間体制をとり、交代で対応を行いました。また、現在は当院の臨床心理士が、カウンセリングを実施し、被災者の心理的支援も行っています。

今回の震災ではヘリを使った搬送などもあり、近隣の消

防署などとの連携強化、また、医療機関間でのスムーズな患者情報共有の必要性を感じました。今後、今年4月から運用が開始されている熊本メディカルネットワークシステムなどのツールを活用していくことで、正確で迅速な患者情報の共有が図れるのではないかと考えます。まずは既存のツールを有効活用し、災害時にも患者さんに安心して医療を受けていただける環境作りに取り組んでまいります。

医療福祉連携室 今井 志帆

## …臨床心理士より

災害後のストレスは、時間が解決してくれることも多いと言われる一方で、数年経過しても被災時の傷が癒えないとの報告もあります。

被災後の不安の訴えや落ち込みなどは、程度の差はあっても誰にでも起こりうる自然な反応でもあります。また、被災直後は、身体の安全や衣食住などの生活環境の充足が優先され、数日、数週間が経過することで、徐々に日常生活にも目を向けることができるかもしれません。しかし、お腹や頭が痛い、何にも感じない、落ち着きがない、自分を責めてしまうなど、身体、気持ち、行動、考え方にストレス反応がみられる場合があります。また、一見

元気に見えたり、活動的になったり、気がつきにくい場合もあります。さらには、支援者として誰かのために働くことが、かえって自分自身に大きな負担をかけていることもあり、見過ごされがちです。

そこで、当院でも被災者への対応方法、早期ストレス反応への気づき、さらには、支援者自身のセルフケアを目指し、災害時の心のケア冊子を院内マニュアルに追加しました。

災害支援では、早急な支援と継続的な活動が必要です。適切な対応方法を学びつつ、災害時に備え、今後の支援に繋げて行きたいと思っています。

臨床心理士 鶴田 真奈美

## ～薬剤科からのお知らせ～

針刺し切創・皮膚粘膜曝露後に予防のために服用する抗 HIV（Human Immunodeficiency Virus：ヒト免疫不全ウイルス）薬が変更となりました

人吉医療センターは人吉球磨地区の針刺し事故後の HIV 感染予防薬（以下、予防薬）配置病院として熊本県から 2009 年 7 月に指定を受けました。近年、エイズ患者は増加傾向にあり、これに伴い今後針刺し事故等の増加が懸念されるところです。医療機関等において万が一 HIV 抗体陽性（疑いも含む、後述）血液の針刺し事故が起こった場合に、針刺し事故後可能な限り 2 時間以内に第 1 回目の予防薬を服用できる体制を整備することが予防薬配置の目的です。

今回、抗 HIV 治療ガイドライン（2016 年 3 月発行）の改訂に伴い、熊本県針刺し切創・皮膚粘膜曝露後の抗 HIV 薬服用マニュアル（以下、『マニュアル』）も本年 5 月に服用薬剤を中心に大幅に改訂されましたので、その内容をお知らせいたします。

予防薬を服用する場合は、「HIV 抗体陽性血液」および「HIV 抗体陽性が強く疑われる血液（ニューモシスチス肺炎・クリプトコッカス髄膜炎等の症状があり、HIV 抗体陽性であることが推定できる血液）」（以下、汚染血液）の針刺し等により HIV 感染の恐れがある場合に限られます。予防薬を服用する場合は被汚染者が針刺し等の事故発生後に当院に電話連絡の上、来院いただきます。その際に、「抗 HIV 薬予防投与依頼書」に必要事項を記入してから、来院時「予防薬服用同意書」に署名後、予防薬

服用となります。当院から予防薬は 3 日分をお渡ししますので、その分の服用終了までに専門医（熊本大学医学部附属病院が最も有力）を受診してください。もし、その時に予防薬の服用が必要と判断された場合の服用期間は 1 か月とされています。服用する薬は『ツルバダ® 配合錠とアイセントレス® 錠（表）』です。薬剤の用法用量は表のとおりです。曝露後の検査は、(1) 曝露時ベースラインの検査、(2) 曝露後 6 週目、(3) 曝露後 12 週目、(4) 曝露後 6 ヶ月目、の 4 回が推奨されています。

改訂前は被汚染者が妊娠中である場合も想定して『カレトラ® 錠 1 日 4 錠とコンビビル® 錠 1 日 2 錠』も配置されていたのですが、熊本県内で使用実績がなく、薬剤にかかわる費用も高額であることから、今回の改訂では妊婦のための予防薬の配置は行わず、そのような事象が発生した場合には熊本大学医学部附属病院に個別に相談ということになりました。

万が一汚染血液による針刺し事故に遭遇した場合に HIV に感染するリスクは B 型・C 型肝炎と比較してかなり低く、B 型肝炎の 1 / 100、C 型肝炎の 1 / 10 程度で HIV については平均 0.3% 程度であり、感染直後に抗 HIV 薬を服用することで、感染リスクは約 80% 低下するといわれています。しかしながら針刺し等の事故は発生しないのが何よりです。

なお、本マニュアルは熊本県のホームページに記載してありますので、参考にしてください。

熊本県庁ホームページ → “エイズ” で検索

担当窓口 薬剤師 嘉村基樹

|     | 改訂前 予防薬                                                                                            | 改訂後 予防薬                                                                                             |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般的 | <b>ツルバダ® 配合錠</b> （逆転写酵素阻害剤）<br>1 日 1 回 1 回 1 錠<br><b>カレトラ® 配合錠</b> （プロテアーゼ阻害剤）<br>1 日 2 回 1 回 2 錠  | <b>ツルバダ® 配合錠</b> （逆転写酵素阻害剤）<br>1 日 1 回 1 回 1 錠<br><b>アイセントレス® 錠</b> （インテグラーゼ阻害剤）<br>1 日 2 回 1 回 1 錠 |
| 妊婦  | <b>コンビビル® 配合錠</b> （逆転写酵素阻害剤）<br>1 日 2 回 1 回 1 錠<br><b>カレトラ® 配合錠</b> （プロテアーゼ阻害剤）<br>1 日 2 回 1 回 2 錠 | 熊本大学医学部附属病院に<br>個別に相談                                                                               |

## 登録医紹介

### 上球磨クリニック

管理者：谷川 廣一（たにがわ ひろかず）  
場所：熊本県球磨郡多良木町大字多良木 2905-1  
電話番号：0966-42-5868  
診療に従事する医師：谷川 廣一  
診療科目：内科・消化器内科



（院長から一言）  
平成 28 年 5 月より診療開始致しました。  
精一杯がんばりたいと思います。  
よろしくお願いします。

|                 |    | 日曜・祝日 休診 |   |   |   |   |   |    |
|-----------------|----|----------|---|---|---|---|---|----|
| 診療時間            | 曜日 | 月        | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日  |
| 午前（9:00～12:30）  |    | ●        | ● | ● | ● | ● | ● | 休診 |
| 午後（14:30～17:30） |    | ●        | ● | × | ● | ● | × |    |

※ 急患はこの限りではありません。往診もいたしますので、お気軽にご相談下さい。  
敷地内全面禁煙となっております。ご協力お願い申し上げます。

## IGRT（画像誘導放射線治療） 始まります

昨年12月より、放射線治療装置の更新に伴う放射線治療の休止で、長期間に亘り大変ご迷惑をお掛けしております。本年の7月より再開予定となっており、現在安全な診療開始に向け準備中でございます。

今回の更新はメーカーのサービス終了に伴うもので、JCHOグループ3施設の共同購入により機種を選定しました。当院は立地条件が地方ながらも地区の中核病院としてがん診療に力を入れており、がん治療の3大柱の手術、化学療法、放射線治療を集学的に行っています。

放射線治療には大きく分けて外部照射と内部照射があります。内部照射はRALSと呼ばれる内腔照射やI（ヨード）による甲状腺の照射などがあります。外部照射はリニアックを始め、ガンマナイフや粒子線治療が該当します。当院の放射線治療はこのリニアックによる外部照射による放射線治療を行っており、今回装置の入れ替えとなりました。

以前の装置と大きく変わったのはIGRT（アイ・ジー・アール・ティー）の機能が備わった点です。IGRTというのはImage Guided Radiation Therapyの略で、画像（Image）による誘導（Guided）で行う放射線治療（Radiation Therapy）のことです。画像というのは放射線治療装置に装備されているX線撮影装置（X線管球と検出器）により取得します。取得したX線写真と治療開始前に撮影したCT画像から再構成した位置合わせ画像を融合させます。X線撮影による骨での位置合わせだけでなく、X線撮影装置を回転させることによりCTのような画像も撮影することができ、肺がんや前立腺がんなどターゲット（腫瘍などの目的部位）での位置合わせも可能です。

以前の放射線治療では患者さんの体に付けた印のみを

頼りに位置合わせを行っていましたが、この方法だと印に正確に位置合わせを行ったとしても皮膚の伸縮や体の内部の動きにより、真の位置との誤差が±5mm程度含まれると言われていました。IGRTではこの誤差を小さくすることができますので、より精度の高い位置合わせが可能となります。精度の高い位置合わせが可能になると、ターゲットの近くにあるリスク臓器（放射線を当てたくない臓器）への影響を少なくすることができ、有害事象を軽減することができます。

また、更新にあたり治療室内部の壁紙、床面の張り替えを行ったり、BGMやアロマの導入を予定したりと患者さんにとってストレスの少ない空間を提供できるようになりました。

診察は、毎週水曜日に熊本大学医学部附属病院から非常勤の医師が来られ、新患の診察と治療中の患者さんのフォローを行います。放射線治療の適応や効果、有害事象などご不明な点がございましたらご相談頂ければ幸いです。

これからも医師、看護師、診療放射線技師並びに関係スタッフとともに、患者さんにとって安全・安心な医療を目指しますので、よろしくお願い申し上げます。

画像診断センター 主任診療放射線技師 前田 竜一郎



## 第12回南九州3県 県境地域医療連携懇話会開催

平成28年4月28日（金）19時からあゆの里にて南九州3県県境地域医療連携懇話会が開催されました。今回で12回目の開催となり、人吉球磨、えびの、伊佐の3地域の医師、市町村、行政機関、薬剤師会、病院スタッフ等約100名と多数のご出席をいただきました。



まず、佐藤敏信 前厚生労働省健康局長より「今回の診療報酬改定とその財源をめぐる政府レベルでの攻防～医療政策は誰がどこでどう決めてるのか？～」をご講演頂きました。

開会式では人吉市医師会の外山博之先生にご挨拶を頂き、球磨郡医師会長の山村正統先生より乾杯の発声の下、親睦を深めました。また、当院副院長の下川先生と循環器内科部長の中村先生より当院の現状や、活動報告、今後の地域医療連携の課題等について発表を行いました。

最後は球磨郡公立多良木病院企業長の大島茂樹先生より締めのご挨拶を頂き、盛会の内に終了しました。

先の震災の対応など、ご多用の中にも関わらず、多数お集まりいただき誠にありがとうございました。今後も医療連携に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療福祉連携室 小田 薫子

## 第41回地域協議会開催

4月28日 18:30～第41回地域協議会（地域医療支援委員会）を開催しました。当協議会は人吉球磨、伊佐、西諸地域の医科・歯科医師会、薬剤師会、行政、学識経験者などから構成され、地域医療連携などについて年4回の話し合いを行っています。

今回議題の中心は、先日発生しました平成28年熊本地震について、各団体の被害状況や支援活動の報告がありました。当地域は被災地よりも少し離れた場所にあるため、被害は少なく支援活動などが中心となりましたが、今後当協議会でも災害時の県境を越えた連携体制について、システム構築や訓練などを行っていくことになりました。





## 人吉医療センター骨粗鬆症チームについて

人吉医療センターでは今年3月から人吉医療センター骨粗鬆症チームを立ち上げました。

整形外科の薬師寺先生をリーダーに、産婦人科、薬剤科、整形外科病棟、整形外科外来、産婦人科外来、画像診断センター、臨床検査室、リハビリ室、医療福祉連携室、予防医療センターのスタッフで活動しています。

まずは地域住民の方向けの啓発を目的に定期的に人吉球磨骨粗鬆症教室を開催することにし、第1回人吉球磨骨粗鬆症教室を5月14日に“骨粗しょう症って子供の病気？”と題して主に骨粗鬆症の予防についてお話をしました。今後、骨粗鬆症の診断や治療について話をしていく予定です。

また地域の骨粗鬆症の診療レベルの向上を目的にリエゾンサービス（骨粗鬆症の病診連携）にも取り組んでいきたいと考えています。

産婦人科 星原 孝幸



## 職員旅行

in 九重



4月6、7日の2日間、大分の九重への職員旅行に参加させて頂きました。

今回は22名、その内13名が新人職員であったため、初めは緊張した旅行になる

と思っていました。

九重までの道のりではバスの中で自己紹介をして盛り上がった、阿蘇の雄大な景色をバックに全員で写真撮影したりと、とても楽しい雰囲気になり緊張もほぐれていきました。

九重では地熱発電所の見学をさせて頂き、発電の仕組みや種類を映像で見たり、地下から取り出した蒸気を利用す

ることによりタービンを回して発電する施設を見学でき、地球のエネルギーを肌で感じる事ができました。

その日の夜の宴会では大分の生産者が心を込めて育てられた野菜や豊後牛を堪能することができました。その時に新人職員の方々と、様々な職種の方々と交流することができとても有意義な時間が過ごせました。

2日目は阿蘇ファームランドで様々な体験ができると楽しみにしていましたが、悪天候に見舞われてしまいました。ですが初日に交流できなかった方々とお話することができました。

今回の旅行ではこれから働いてく上で大切なコミュニケーションの大切さを感じることができました。

このような機会を作ってくださった院長先生をはじめとする職員の方々に感謝し、これから患者様を第一に考えながら業務に取り組んでいきたいと思ひます。

画像診断センター 大原 竜一

## 新 任 紹 介

なかの あいこ  
中野 愛子（臨床研修医【協力型】）

最終卒業校：宮崎大学

趣味：テニス、食べ歩き、旅行、読書

生活信条：遠回りした分、少しでも患者さんの痛みや気持ちに寄り添える医療人になれたらと思っています

自分の性格：親しみやすく温和な性格です。少し抜けてるところもあるかもしれません...

自分のコマーシャル：歩みはゆっくりですが、周囲の支えに感謝しながら頑張っていきたいです。済生会熊本病院から3ヶ月お世話になります。よろしくお願い致します。



はしづめ かずこ  
橋詰 和子（五木村診療所・看護師）

最終卒業校：中京専門学校

趣味：旅行

好きな言葉：継続は力なり

自分の性格：思ったことを言葉に出したり行動することが長所であり短所である

自分のコマーシャル：4ヶ月の充電期間をとり再出発です。今度は五木診療所で看護の仕事頑張りたいと思ひます。



くにもと ゆき  
国本 由貴（外来・看護師）

最終卒業校：鹿児島医療技術専門学校

モットー：思い立ったらすぐ行動

自分の性格：おっちょこちょい、泣き虫、負けず嫌い

自分のコマーシャル：まだまだ未熟者ですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

## 5月の勉強会報告

5月12日(木) 第87回消化器カンファレンス

「AFP産生胃癌の一例」

当院 消化器内科 西村 淳先生

「腹腔鏡下幽門側胃切除術(LDG)のup to date」

当院 内視鏡外科部長 田中 秀幸先生

5月30日(月)人吉・球磨・えびの地区整形外科合同カンファレンス

「子どもの体とスポーツ」

熊本大学大学院生命科学研究部 整形外科学分野

教授 水田 博志先生

5月31日(火)診療報酬改定勉強会

「平成28年度診療報酬改定 対応のポイント

～人吉医療センターはいかに対応するか～」

一般社団法人日本血液製剤機構 事業本部 事業戦略部

谷澤 正明先生